

栗橋地区

	意見等のまとめ	要旨・備考
1 グループ	<p>今後地域で取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントに協力してもいい。しかし、農家は空いている時間が少ない。 ・社協が良い事業を行っても、特に若い世帯に社協の必要性が伝わっていないので、もっと PR する。 ・農地が減って、建売住宅が増えてきた。新しく入居してきた人は自治会になかなか入らないので、入る工夫を検討する。 ・地域のイベントには、お土産（お菓子等）をつけると参加者が増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ整備（新しい集会所、デマンド交通の拡充、循環バスの運用）に話が主となった。車が生活の移動手段の基盤になっている地域が多く、先行きの不安が大きい。
2 グループ	<p>今後地域で取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なあいさつ、ゴミ出し時の声かけ、回覧配布などの時にイベントや催し物への参加を呼びかける。 ・障がいを持った方には筆談やジェスチャーなどを使って会話することで、伝わることもある。 ・障がいのある方に、簡単な配慮はできる。そういった配慮を繰り返していくうちに、関係性は少しずつ築けるし、笑顔になれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが「人とふれあいたい」、「話をしたい」と感じていると思う。まずは簡単なあいさつや簡単にできる配慮を行い、かかわりあい、関係を作る。『あなたがそこにいる』ことを知っているという気持ちの上でのつながりを築く。
3 グループ	<p>現在地域で取り組んでいる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会館は、80歳以上の人には無料で開放している。（高柳） <hr/> <p>今後地域で取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業で手話を取り入れてもらい、普段から使えるようになれば、障がいがあってもコミュニケーションをとることができる。 ・ゴミ出しを手伝う（燃やすゴミのように毎回は難しい）。 ・サロンをやりたい（場所は要検討）。 <p>⇒利用できる地区・曜日を決めて、サロンにマイクロバスなどで送迎してくれると、足腰が弱い人も集まれるし、みんなが使える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かで集まって世間話を楽しむのは、80歳以上の世代。それより若い世代では、集まる機会がほとんどなくなっている。出不精の方もいるが、高齢になると外出したくても手段がなくて外出できない状況がある。 ・地域のコミュニケーションがなくなっている状態で、どうしたら地域の高齢者に出てきてもらえるかということ、普段から考えている。

	意見等のまとめ	要旨・備考
1 グループ	<p>現在地域で取り組んでいる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆうゆうプラザで、子どもから大人、高齢者まで多くの人が栗橋音頭を踊っている。 <p>.....</p> <p>今後地域で取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、人が集まる。集いのテーマは、例えば防災等、簡単で興味のある話題とする。集まれば、地域に埋もれている、特技を持っている人が見つかる。 ・参加への声かけは「一緒に行きませんか」 ・老人会・子供会などは 2～3 か所の区が協力して一緒にやるとよいのではないか。区長の理解と協力が必要。 ・民生委員の役割は幅広いので、地域の人に協力してもらおう。また、民生委員の存在を地域に知ってもらえるよう、総会に出る、自治会の会報で知らせるなどアピールする。 ・グラウンドゴルフなど 3 世代ができるツールを活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく人が集まるようにすることが大事。行事は区長の協力を得て、2～3 か所の区と一緒にやるとよいのではないか。声をかけるときは「こんな催しがありますよ」ではなくて「一緒に行きませんか」と誘う。実際に、「誘われなかったから行かなかった」という話を聞いた。
2 グループ	<p>今後地域で取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代を関係なく参加できる誰もが参加できるイベント（そば打ちや餅つき大会など）を開催する。 ・みんなが出てこられる「場所」をつくる。（サロン活動など定期的に月 1 回等） ・参加者が高齢化しているため、運動会の内容を考慮した上で、参加を促す（健康維持、交流等）。 ・世帯の中心で、地域活動に参加している女性の口コミは情報伝達に有効。 ・回覧板を利用して情報発信する。 ・自治会と連携して、地域活動を行うリーダーを育成（複数人 2～3 人）し、地域活動の担い手として活動できる環境を整備していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からの住民のコミュニケーションが大切である。情報伝達方法についても話し合い、回覧板での情報発信や口コミでの情報の伝達も必要ということになった。

3 グループ	<p>今後地域で取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性中心の講座をつくる（楽しめるもの、来やすいもので、たとえば麻雀、映画、健康相談など）。 ・子供も参加できる地域のイベントを開催する。 ・まずは隣近所とのつながりを持つこと。そうすることにより、輪が広がっていく。 ・子供の遊び場をつくる。そのために地域のパトロール（住民がおこなう）の強化をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンに参加する男性が少ないこと、子どもとの交流が少ないことが課題。近所のつながり、地域住民自らの地域パトロールの強化が大事。
4 グループ	<p>現在地域で取り組んでいる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災用具で普段から炊き出し訓練をしている。防災は目的が皆同じ。 <hr/> <p>今後地域で取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが溶け込めるようにするために、回覧で声かけしたり、実施したイベントの報告をする。 ・イベントへは参加したことのある人が大きな声で、参加したことのない人を誘う。 ・男の人を積極的に誘い、仲間づくりをする。 ・地区を超えて仲間を集める。子ども会、高齢者の活動も、参加人数が少なければ、広範囲に声かけしてみる。隣の地区の集会所のほうが近い場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段イベントに参加しない人にも、粗品を届ける等の活動が、参加率の高さやイベントを継続する力になっているのではないか。 ・趣味のサークルは、出欠席を取らないし名簿もない。いつも気兼ねなく集まり活動している縛りの緩いサークル。このようなサークルだと誰でも継続して活動しやすい。
5 グループ	<p>現在地域で取り組んでいる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで集まるイベントの催し。（伊坂6丁目：豚汁大会、焼きそば。栗橋ハイツ：盆踊り、餅つき、グラウンドゴルフ、卓球、そば会、お花見会） ・指導者がいることで開催：毎月習字、手芸活動（エコ・リサイクル）。 ・日帰りバス旅行、感謝祭（福寿） ・活動の内容をみんなに周知している（エコ通信を配布し結果を報告）。 <hr/> <p>今後地域で取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。 ・企画・イベントの催しをして、交流する機会を作る。 ・回覧板を手渡しし、挨拶することから話をするきっかけを作る。 ・実際に集まってみることが大切。 ・お祭りやイベントが好きな人を確保する。（退職した人、まだ若い人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・栗橋ハイツ、福寿は積極的に地域の集まりやイベントを実施している地区。伊坂6丁目も回数は少ないが実施できている地区。 ・ワークショップ参加者はすでに活動している人。イベント等に参加しない人をどうしたら呼び込めるかが課題との意見があった。

	意見等のまとめ	要旨・備考
1 グループ	<p>今後地域で取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の役員を退いた人にも、なにか「役」をしてもらい、サロンなどを進めていく。 ・普段から近所の仲のいい人（共通の趣味や立場の人）で集まって、お茶会などを行う。 ・自分でどこかへ出かけて行って、サークルなどに入り、親族に心配をかけない。 ・情報が届くように、自治会加入者でない家庭にも広報誌を配布する。 ・夏休みのラジオ体操など、自分の自治会の催しをほかの地区にも広報し、できるだけ多くの人を集め、若い人にも関心を持ってもらう機会を作る。 ・お祭りでお神輿を子供たちに担いでもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題について次々と話が展開する中、「楽しめる場、集まる場」が必要という意見が出る。そのための人材育成、地域活動の周知をどう進めるか考えた。
2 グループ	<p>今後地域で取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加する気持ちを起こさせる（例えば、みんなとの会話が楽しいと悪天候でも手押し車を押してサロンに来る人がいる）。 ・友達の友達を誘う。 ・日ごろから地域で助け合いができ、「災害時には誰が誰を助けるか」がわかっているといい。普段から顔を見ていれば、名簿はいらない。 ・「小さなつどい」を開きたい。心も服装も普段着で行けるところがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなつどいの場所として「集会所」がテーマに。空き家の利用、何地区か合同で建設する等の案が出されたが、人間関係等の苦勞を乗り越えて自治会館を作ったという実例の話があった。
3 グループ	<p>現在地域で取り組んでいる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の地区だけでは、参加者が集まらず、イベント等を行う時は、隣近所の区長にチラシを渡し、招待している。 <hr/> <p>今後地域で取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に目を向けてもらう活動を行う（炊き出し訓練などの防災活動）。 ・サロンを開催し、いろいろな人来てもらえるように声をかける。 ・ボランティア活動をする。 ・あいさつができる人間関係づくり。 ・自治会の中に役職を作り、自治会で活動する人を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画実現のためには、地域の活動だけではなく行政等の力も必要。職員は世間話等を交え、地域の人に歩み寄るような話ができたら良いのではないかとの意見あり。